

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」
まちだ納税貯蓄組合連合会優秀賞

「介護保険と税」

町田市立成瀬台中学校 3学年 澤木 伶依

私は、介護保険について調べた。数年前に曾祖父が亡くなり、曾祖母は、今は一人暮らしをしている。

曾祖母が病気や怪我をして、買い物や掃除ができなかった時、介護保険制度により居宅サービスを受けることが出来た。居宅サービスとは介護が必要な高齢者が自宅に居ながら受けられるサービスを指す。実際に、曾祖母は、デイサービスセンターで介護サービスを受けられるようになったり、ヘルパーさんが週に三回掃除や買い物、料理をしてくれている。近くに住んではいるものの、祖父や祖母、私の母も仕事をしているので、毎日、曾祖母の手伝いに行くことは難しいが、ヘルパーさんやデイサービスののおかげで、曾祖母は毎日人と関わりながら生活を送ることができている。曾祖母に話を聞いたところ、一人で過ごす時間が減り、安心して過ごすことができ、本当に感謝していると話していた。

私は介護保険制度に税金はどう関わっているか調べた。介護制度とはみんなが安心して暮らせる社会を目指し、介護や支援が必要になった時に、適切なサービスの提供を通して高齢者の自立支援と要介護状態の重度化防止のため、社会全体で支え合う保険制度のことだ。介護保険は、国・都・市の介護保険被保険者が費用を負担しあっている。介護給付などの費用の約2割は、利用者が納めているが、残りの約半分は税金などの国や市の公費からきているそうだ。そして、残りの費用は第一号被保険者という、65歳以上の方と第二号被保険者という40〜64歳の方からの保険料でまかなわれている。それに伴い、随分前から問題視されている、少子高齢化。介護保険との関係も、大いにあると思う。

私は少子高齢化についても調べた。日本は人口に占める高齢者の割合が増加する「高齢化」と、出生率の低下により若年者人口が減少する「少子化」が同時に進行する少子高齢化社会となっている。約40年後までに、65歳以上の人口は、ほぼ横ばいで推移する一方で20歳〜64歳人口は大幅に減少し、高齢化率は約10%程度上昇することが見込まれている。高齢者が増えたと、税金が使われている医療や年金、介護などに必要なお金が増えていくことになる。しかし、高齢者の生活を支える若い人の数は減っていくと予想されるので、今のままの税のしくみでは、わたしたちの生活を支えることが難しくなっていく。この「少子高齢化」はわたしたちにとってとても大切な問題だ。

社会の変化に合わせて、税のしくみも考えていくことが必要になる。少子・高齢社会では、お互いが支え合うことが今まで以上に必要になり、税金の集め方や使いみちをしっかりと考えていくことが大切になってくると思う。